Editor's Note

皆様のご協力により、ここに『現代ディスクロージャー研究』第14号をお届けすることになりました。この14号については、論文セッションに10本の投稿があり、厳正な審査の結果、2本が採択されました(次頁の「編集データ」参照)。

1本目の論文は、債権者の融資継続に関する意思決定について分析を試みたものです。先行研究で提示されたモデルに経営者による情報開示および開示規制という要素を組み込むことで分析の拡張が図られています。

2本目の論文は、証券アナリストによる投資推奨の公表・変更と株価収益率の関係を分析した実証研究です。証券アナリストの投資推奨の情報価値を検証しており、特に中長期的なリターンに焦点を当て、その情報効果が6か月間に及ぶという興味深い結果を報告しています。

また、会長メッセージとして黒川行治会長より寄稿いただきました。社会科学者の果たすべき役割は何かという根源的な問題を問いかける内容です。具体的な研究課題を提示されつつ、本学会および研究者に対する期待が語られています。

以上が第14号に掲載いたしました論文等になりますが、これ以外の本編集委員会の活動に研究カンファレンスの開催があります。2013年1月の神戸大学における、首藤昭信氏（神戸大学）・岩崎拓也氏（関西大学）の“The effect of institutional factors on discontinuities in earnings distribution: Public versus private firms in Japan”、2014年1月の専修大学における円谷昭一氏（一橋大学）の「変数「外国人持株比率」はなぜ有意になるか」を企画しました。報告者、コメンテーター、司会者そして参加いただいた皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。その一方で、研究カンファレンスの活発化とそこでの報告を経た論文の本誌への掲載というルートを太くしていくことも編集委員会の課題であると考えています。

また、2014年5月の理事会、総会で承認されました諸規程の変更についても触れさせていただきます。最も大きな変更は、英語による投稿を認めることが明記された点です。日本発の研究成果を海外に発信していくためには不可欠な取り組みと思います。当面は、日本語による論文と英語による論文が並列する形式になろうかと思いますが、ゆくゆくは英語による論文のみで構成された号を刊行していきたいと考えています。これを実現するためには、会員各位のますますの協力が必要になります。学会からも2014年度予算において、英語への翻訳に関する助成を計上していただきました。この点に関する具体的な募集については編集委員会にて検討中ですので、確定しましたらホームページ等を通じてお知らせさせていただきます。

最後になりましたが、快く査読を引き受けていただき、本誌の質的水準の向上に貢献いただきました査読委員の皆様にあらためて感謝申し上げます。また不慣れな編集委員長をサポートいただいた編集委員の先生方に心より感謝申し上げます。

研究誌編集委員長
中條祐介

編集データ

『現代ディスクロージャー研究』第14号の編集状況は次の通りである。すべての原稿は、研究誌編集委員会が採否を決定した。論文セッションの原稿は、複数の匿名査読委員によってレビューされている。

論文セッション

受付数	10
受理数（採択率）	2 （20%）

研究誌編集委員会

謝　　辞

査読委員の長期にわたる真摯なレビューがなければ、学会誌の品質はけっして確保できませんでした。現代ディスクロージャー研究編集委員会は、ここに記して、第14号の査読委員の皆様に感謝の意を表します。謹んで御礼申し上げます。

浅野　　敬志　　首都大学東京
石川　　博行　　大阪市立大学
一ノ宮　史郎　　専修大学
海老原　　崇　　武蔵大学
大鹿　　智基　　早稲田大学
太田　　浩司　　関西大学
太田　　康広　　慶應義塾大学
奥村　　雅史　　早稲田大学
加藤　　千雄　　大阪経済大学
坂上　　　学　　法政大学
中野　　　誠　　一橋大学
村宮　　克彦　　大阪大学
（敬称略、五十音順）

研究誌編集委員会